

■今月のメッセージ (2011年9月)

日本銀行富山事務所長

水上 誠一

日本は、震災復興という重い課題を抱え、一方で景気回復のカギとなる海外経済では、米国、欧州、新興国がそれぞれの事情で苦悩しており、内憂外患とも言える状況です。こうしたときこそ、次の一手を繰り出す元気が不可欠ですが、その前に統計数字などの現状を冷静に分析する心構えも大切です。

「世の中には三つの嘘がある。嘘、真っ赤な嘘、そして統計だ。」(ディズレーリ元英国首相)という言葉があります。統計と言えば「平均」が当たり前のように使われていますが、その歴史は意外に浅く、現在残っている文献では1830年代とされています。画期的な発明でしたが、元々多様性を観察するための道具であったことを考えると、平均の数字に惑わされることなく、平均を基準として「ばらつき」をよく見るのが大切です。よく引き合いに出されるのは日本の世帯当たり貯蓄額で、2010年調査では平均貯蓄額が1,244万円であり、実感と全く離れている。そこで、次に丁度中間の順位の数(中央値)を見ると743万円となり、ぐっと下がるもののまだ多い。更に金額帯毎の世帯数の構成比をとると、最も多い14%を占めるのが100万円未満と分かり、漸く納得するわけです。ここで大事なことは、平均貯蓄額を聞いて「へえ～」で終わるのではなく、どんなに溜め込んで使わない人がいるかまで興味を持つことで、税制改革など国民的な政策論議にも繋がる大事な情報と捉えることです。

また、歴史的円高と言われていますが、物価上昇率や貿易額を加味した実質レートは低いままであり、実際どうなのかと調べてみると、ここ10年間で例えばニューヨークでの生活費には5割以上上昇しているものが結構多いのです(カッコ内は10年間の上昇率)。

タクシー(空港から市内基本料金)	30ドル	⇒	45ドル	(+ 50%)
ミュージカル「シカゴ」(最安値)	37ドル	⇒	69ドル	(+ 86%)
メトロポリタン美術館	10ドル	⇒	25ドル	(+150%) <以上 JTB>
牛乳1ガロン	3ドル	⇒	5ドル	(+ 67%) <Amazon>

この間、円は10年前(120円)より+40%弱の円高ですので、10年振りに米国旅行をした方は全然お得感がないと思います。また、The Economist 誌のビックマック指数(2011年7月)によると、米国でのビックマックの売価が4.07ドルに対して、日本では320円であり、この価格差から円は78円62銭と計算できるので、現在はやや行き過ぎ程度に見えます。ところが、テレビの価格は10年前のなんと5分の1でその電子部品も国際競争激化で下落が続いており、日本の主要輸出品の価格下落が日本の輸出産業を苦しめていることが分かります。

以上は様々な見方の一端を示したものに過ぎませんが、個々の経済現象を単純に善悪で判断せず、色々な角度で評価し意見を交わすことで、より適切な政策選択や企業・個人の行動選択に繋げていくという姿勢・責任感が、今国民一人一人に求められていると思います。